

# Profile

## メンデルスゾーン・コア Mendelssohn-Chor 合唱

2006年5月、メンデルスゾーンの知られざる合唱名作に光を、との意図のもと、ムシカ・ポエティカの新しい合唱団として東京に発足。当初はメンデルスゾーンを中心に、シュッツ、バッハ、ディストラーらの作品の演奏で研鑽を積む。2007年11月には淡野弓子の指揮により《エリヤ》、2009年10月には淡野太郎の指揮により《パウロ》と、メンデルスゾーンの2大オラトリオ演奏を成功裏に終了。以降、主にハインリヒ・シュッツ合唱団・東京との共演によって、バッハ《マタイ受難曲》、リスト《キリスト》、メンデルスゾーン《詩編第42編》、ベートーヴェン《交響曲第9番》等、数多くの大規模合唱曲を演奏し、2013年11月にメンデルスゾーン《エリヤ》を、2016年7月には《パウロ》の再演を果たす。

大編成合唱曲の演奏の傍ら、団の本来のコンセプトである「メンデルスゾーンの合唱曲を中心とした19世紀の合唱曲」という研究課題を練習の原点に置き、近年は19世紀の合唱小品を集めた小規模なコンサートを開催。第3回となる今回、19世紀後半までの西洋音楽の歴史を探る試みとして、12世紀後半以降の合唱小品を年代順にピックアップする。

ソプラノ 今村 ゆかり／梶山 いづみ／田代 田鶴子／巽 瑞子／玉井 千恵／大和 美信  
アルト 秋山 百合子／影山 照子／栗川 三千子／柴田 圭子／戸井 恵子／森本 浩子  
テノール 甲斐 高志／依田 卓                      バス 中村 誠一／山形 明朗

## 淡野 太郎 Taro Tanno 指揮

東京都立芸術高校を経て東京藝術大学卒業。この間、声楽を岡崎實俊、佐々木正利、嶺貞子、リコーダーを守安功、濱田芳通、ファゴットを山上貴司、音楽理論・アンサンブル等を野村満男、江端伸昭の諸氏に師事。藝大在学中にバッハカンタータクラブに所属し、小林道夫氏の薫陶を受ける。1997年以降度々渡欧し、声楽及び歌曲解釈等をA.ギーベル、C.モラーヌ、Z.ファンダステーネ、H.Ch.ポルスターの諸氏に師事。2003～04年ヘアフォルトのヴェストファーレン教会音楽大学において声楽をS.シャマイト、リコーダーをE.シュヴァンダ、合唱指揮をH.ハーケの諸氏に師事。2004～06年ライブツィヒ・ゲヴァントハウス室内合唱団メンバー。

2007年の帰国前後から指揮活動を本格化させ、J.S.バッハ《ヨハネ受難曲》《マタイ受難曲》《クリスマス・オラトリオ》《マニフィカト》他およそ100曲以上の教会カンタータ、リスト《レクイエム》《十字架の道行き》、メンデルスゾーン《パウロ》《エリヤ》《詩編第42編》、ベートーヴェン《交響曲第9番》等を指揮し、好評を博す。現在、ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 常任指揮者。ユピキタス・バッハ、メンデルスゾーン・コア、各指揮者。

指揮の他にもソロやアンサンブルの歌手として数多くのオラトリオ、カンタータ、リート等の分野で活動する一方、リコーダーやドゥルツィアン奏者としても様々な楽曲を演奏。2009年、14年、15年にソロ・リサイタル開催。ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレンゲ」会員。『ムシカ・ポエティカ』スタッフプレイヤー。